



2016 年 新春メッセージ

みなさま、新年おめでとうございます。

今年もインベストラ이프ならびにI-OWAをどうぞよろしくお願いいたします。

新春に当たりいつもインベストラ이프をご支援いただいているみなさまから読者の方々へのメッセージをいただきました。以下に紹介させていただきます。

(順不同、敬称は略させていただきました)

- 森本 紀行 (HC アセットマネジメント株式会社 代表取締役社長)

資産運用業界の君よ、今のままでは、悲しくはないか、情けなくはないか。プロフェッショナルとしての誇りと情熱をもって、決起せよ、叫べ、反乱を起こせ、独立せよ。顧客は、会社の屋号ではなく、その君の決意をこそ、高く評価するはずだ。



- 山口 勝業 (イボットソン・アソシエイツ・ジャパン株式会社代表取締役社長)

あけましておめでとうございます。昨年12月中旬に米国FRBは9年半ぶりの利上げに着手し、リーマン・ショック後の緊急的な金融緩和から脱却して金融政策をノーマル状態に復帰させようとしています。一方、日本の日銀は掲げてきた物価上昇率2%がなかなか実現せず、円安効果も一巡して、追加的な緩和を迫られるのでしょうか？ 日米の金融政策の違いが、為替や株価にどう反映されるのか、2016年はとても興味深い展開になりそうで、かなり市場の価格変動が大きくなるかもしれません。皆様、シートベルトをしっかりと締めて、安全運転で投資を続けるようにしましょう。

- 尾藤 峰男 (びとうファイナンシャルサービス 代表取締役)

昨年は、コーポレート・ガバナンス元年といわれましたが、ROE アップ、自社株買い・増配、株の持ち合い解消は、一種のはやりや一過性のものとして終わってはいけません。いよいよ今年は、企業の本気度が試されるときでしょう。コーポレート・ガバナンス強化こそ、日本企業の競争力の源



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

泉です。これによって投資家、企業ともに WIN・WIN となるのです。そして、1989 年末の日経平均最高値 38,915 円更新が現実のものとなるでしょう。

● 島田 知保（イボットソン・アソシエイツ・ジャパン株式会社 月刊「投資信託事情」 発行人・編集長）

2016 年は、投資信託業界が生活者のために動き出す……そんな変化の元年になって欲しいと思います。政権支援・高齢化対策が背景にあるものの、金融庁主導で、投資信託を活用して自助努力による資産形成を国民に広めるために「投信正常化（普通の商品にしよう）」の圧力が業界に押し寄せた 2015 年。投信販売は、購入時手数料偏重（の回転売買）から残高重視へと変わろうとしています。そうは言っても、投資一任口座などお金持ちから手数料をいただくモデルが主流。そうした収益を自社グループで獲得するために、販売金融機関が投信会社や投資顧問を作るのも、ちょっとした流行になりました。……販売のスピリットの本質はほとんど変わっていません。一方で積立投資家に影響のある動きとして、DC 専用投信の一般販売への解放や、インデックスファンドの信託報酬値下げの動きがありました。また、分散投資のアドバイス機能を持つ「ロボ・アドバイザー」への業界の関心も高くなっています。受託者（仕事を託される専門家）の責任についても、様々な議論がされるようになりました。それらの様々な思惑や動きが、「普通の生活者の資産形成に役立つ」形で花開くよう、私も目を光らせながら、期待もしつつ、2016 年に挑みたいと思います。少しでも多くの方が、お金より大切なことを諦めないために。お金に縛られずに生きるために。人生の選択肢をより多く持つために。2016 年もインベストラ이프を拡げていきましょう！



● 宮井 博（日興リサーチセンター株式会社 理事）

今年は、スチュワードシップとコーポレート・ガバナンスの両コードが普及するかが注目されます。というのは、これらは、経済成長の担い手である企業が、適切なリスクを取って「攻めの経営」をすることのできるガバナンスを求めているからです。そして、スチュワードシップの最終受益者は年金加入者等の個人であることから、最終的には個人が機関投資家のスチュワードシップ活動をモニタリングしなければなりません。個人の金融リテラシーが経済を変えるのです。

● 馬淵 治好（ブーケ・ド・フルーレット代表）

当方主催のセミナーへの参加者で、株価や為替相場の見通し数値ではなく、何が経済や市場を動かしているのかを、自分の頭で考えたいという方が、2015 年はぐっと増えました。一方で、詐欺まがいの儲け話は後を絶ちませんし、企業の不祥事も多かった年であったと思います。世界の経済・金融がつながり、先行きの不透明感も高まるなか、個々人が自分の足で立って金融面で生活



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

を防衛することのお手伝いができるよう、2016 年も務めたいと考えています。

● 菅 淑郎（大手企業勤務）

明けましておめでとうございます。昨年末に米連銀が 9 年ぶりに利上げを行いゼロ金利と訣別しました。今後1年くらいかけて緩やかに1%程度利上げされる可能性もあるようです。今年はどんな相場になることでしょうか？そもそも、一体次のベア相場はいつ訪れるのか？後から振り返って見ることはできても、それを事前に知ることはほとんど不可能です。貴方がもし株式投資家なら、そんな時でも保有を続けられる事業環境と優れたマネジメント力を発揮している企業を探すことに少し時間を使ってみてはいかがでしょうか。今年もインベストラ이프と多くの方との新しい出会いが数多く生まれますことを願ってやみません。



● 鎌田 恭幸（鎌倉投信株式会社 代表取締役社長）

新年おめでとうございます！ 鎌倉投信を起業し、公募投信「結い 2101」の運用・販売開始から間もなく6 年になります。口座数は約 1 万 5 千、ファンドの純資産残高は 210 億円強になり、「いい会社」を応援する投資の取組みの輪も次第に広がっているように感じます。今年も社会に貢献できる投信会社になれるよう、一所懸命がんばります。皆様にとりましても良い一年になりますことを心より祈念します。

● 大江 英樹（経済コラムニスト、株式会社オフィス・リベルタス代表）

みなさん、あけましておめでとうございます。今年は東京はおだやかな年明けでしたが、市場は年初から大荒れのスタートでした。今年もかなり変化の激しいマーケットになると予想していますが、長期投資家にとってはあまり気にする必要はありませんね。投資家が正しい知識と理解を持つことがより健全な市場を育んでいくことだと信じて、今年もより多くの人に“伝える”努力をしていきたいと思います。東京だけではなく、地方のみなさんにもお目にかかる機会が増えると思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

● 平山 賢一（東京海上アセットマネジメント(株)運用本部 運用戦略部 チーフファンドマネジャー／チーフストラテジスト）

2016 年の金融市場は、三つの「エッ！」という意外な出来事が起こるのではないかと、昨年 12 月に参加したセミナーなどでは紹介させていただきました。「エッ！ンの復調(円高)」、「エッ！マーギングの復調」、「エッ！ネルギーの復調」の三つです。米国とその他主要国の金融政策も逆方向の



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

ご時世。これまでの予定調和とは違う時代になりそうな予感があったからです。果たして、どうなるか？期待半分、懸念半分の1月です。今年もよろしくお願い申し上げます。

● 澤上 篤人（さわかみ投信株式会社 取締役会長）

「マーケットは荒れ模様になっていくが、長期投資家にとってはその真価を世に問う年になる」

いち早く景気立て直しにそれなりの成果をあげている米国の出口戦略は、きわめて健全な政策方向にある。しかし、世界の金融マーケットにとっては大きなしわ寄せをもたらすことになる。なにしろ、いまだにゼロ金利と超金融緩和政策に頼らざるを得ない EU や日本と、金利正常化に踏み出した米国との間で金利差が生じ、それがどんどん拡大しかねないからだ。



そうすると、世界のマネーは米国へ引き寄せられる。一方、EU や日本は超金融緩和政策を打てども、打てども、米国へのマネーシフトで景気回復は遅れる。それどころか、米国の金利上昇傾向に引きずられて EU や日本で市場金利の上昇を招きかねない。いくらヨーロッパ中央銀行や日銀が政策金利を低く抑えようとしても、米国の金利上昇に引きずられて保有している低利回り国債から、より高利回りのものへと乗り換えが始まるからだ。低利回りの国債を売るという行動は国債価格の下落、つまり市場金利の上昇に直結する。

市場金利が上昇に転じるや、リーマン・ショック後から日米欧の先進国が実施した異常なまでの資金ばらまきによって形成されていた世界の金融マーケットを大混乱に陥れることになる。それと同時に、国債中心に債券売りの流れが加速する。

金融マーケットの混乱で株式市場も一時的には大きく売られよう。しかし、債券市場の崩れが加速するにつれて、債券から株式への資金シフトが本格化する。これは、歴史的にみると1983年以来の逆転で、32年ぶりのグレートローテーションといわれる現象である。すなわち、長期の株式投資家にとっては絶好の開始込場面が続々と襲来するわけだ。そこをしっかりと拾っておくと3年5年後には、すばらしい投資リターンを手にとりこめる。

● 河口 真理子（社会的責任投資フォーラム共同代表理事）

2016年は世界では政治的緊張や経済的な波乱含みのスタートとなりましたが、東京は穏やかなお正月で幕あけました。国内の動向にフォーカスして考えると、時間がたって今年を振り返ってみると、「ESG投資が本格化した年」と位置付けられると期待しています。2014年からのスチュワードシップコード、コーポレートガバナンスコードに引き続き、2015年9月には念願のGPIFが国連が提唱するPRI（責任投資原則）に署名、持続可能な社会構築とパフォーマンス向上のために環境・社会・ガバナンス（ESG）に配慮する責任投資に積極的に取り組むことを表明しました。GPIFの動きは他の公的年金や企業年金連合会に大きな影響を与えるので、2016年は、主要な運用機関



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

では ESG 投資が標準になる年になるだろうと期待しています。お正月の異常な暖かさ、世界各地で起きている洪水や台風竜巻などの自然災害、貧困問題が遠因とされるテロや国際紛争、これらは経済や資本市場へ大きな影響を与えますが、いずれも ESG の主要な課題でもあります。今年は ESG を観ることなく財務諸表だけみて投資(特に長期投資)する時代の終わりの始まりとなると期待しています。

● 高橋 陽子（公益社団法人 日本フィランソロピー協会 理事長）

あけましておめでとうございます。暮れに、第 18 回まちかどのフィランソロピスト賞贈呈式を開催しました。青少年の部は 28 年間、お年玉募金で、ネパールの学校支援を続ける兵庫県加東市立社(やしろ)小学校が受賞。阪神淡路大震災の折には、ネパールの子どもたちがじゃがいもを売って得た 7,000 円を送ってくれたそうです。昨年 4 月のネパール大地震の際には、緊急募金活動を行ないました。寄付を通して、子どもたちの心の交流が続いています。新年のお年玉の使い途、ピギーちゃんを前に家族で考えてみたらどうでしょう。今年も、次世代のための投資を様々な形で進めていきたいと思います。



● 速水 禎（朝日ライフアセットマネジメント株式会社 リサーチ運用部 ESG 運用グループ）

今年も世界の金融市場は振り子のように揺れ動いていくと思われます。そうした中で株式投資にあたっては株価ではなく企業の価値を買うという姿勢がより重要になってくるでしょう。私は投資の本質とは本物とそうでないものを見極めることにありと考えており、毎日の生活の中でそうした眼を養うことを心掛けて行きます。そして投資収益の源泉を企業価値の成長に求め経済動向に関わらず経営改善によって成長が確実に見込まれる会社を発掘し厳選投資していきたいと思います。

● 中野 晴啓（セゾン投信株式会社 代表取締役社長）

皆さま、明けましておめでとうございます。去年は後半になって、中国が混乱し原油安進行に米利上げと市場の振れ幅が大きくなったまま新年を迎えました。2016 年はグローバリゼーション第二ステージへと、ニューパラダイムが確立するであろう転換の年ですが、長期投資家にとっては新たなビジネスやライフスタイル、或いは産業イノベーションが創り出す次の社会構造に思いを馳せつつ、荒っぽい相場でコツコツ仕込んで行ける機会です。ワクワク気分で次の時代に向けて、今年もいそがないで進んで行きましょう！



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

- 竹川 美奈子（LIFE MAP,LLC 代表／ファイナンシャル・ジャーナリスト）

新年あけましておめでとうございます。無事に新しい年を迎えられたことに感謝しつつ、「投資が趣味でも、仕事でもない、ふつうのビジネスパーソンの資産形成をサポートする」を目標に、今年もできることを一歩ずつ丁寧に取り組んでいきたいと思います。投信ブロガーの renny さん、『投資信託事情』編集長の島田知保さんと一緒に幹事を務める「コツコツ投資家がコツコツ集まるタベ（東京）」は、この 1 月で 68 回目の開催になります。お金について語る場をつくる、投資家さんのすそ野を広げるための活動もコツコツ続けていきますので、よろしくお願い致します。世界的に不穏な空気が漂っていますが、一人ひとりが「希望を持って、今を生きる」ことを心掛けたいですね。